

いただきますでつながる命と命

< 小学校第5学年 >

目的 命をつなげる仕事(牛にかかわる仕事：酪農・食肉・靴づくり・太鼓づくり)について理解し、そこで働く人たちによって自分たちの暮らしが支えられていることを実感する。
わたしたちの命は、他の命をいただくことやそれに携わる多くの人々によっての生かされていることを実感し、命の尊さについて理解を深める。

<気づく>

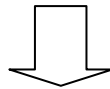
「牛って大きいなあ、あったかいなあ」

・牛について調べてみよう

牛舎を見学し、牛と触れることによって生きている温かさを感じる。
牛舎で働く人々の仕事にける熱い思いを理解する。
牛は、いろんな形で自分たちの生活に関係していることを知り、牛についての課題を見つける。



社会科との
関連
「畜産農業」



<広げる深める 1>

コース別で牛について調べよう

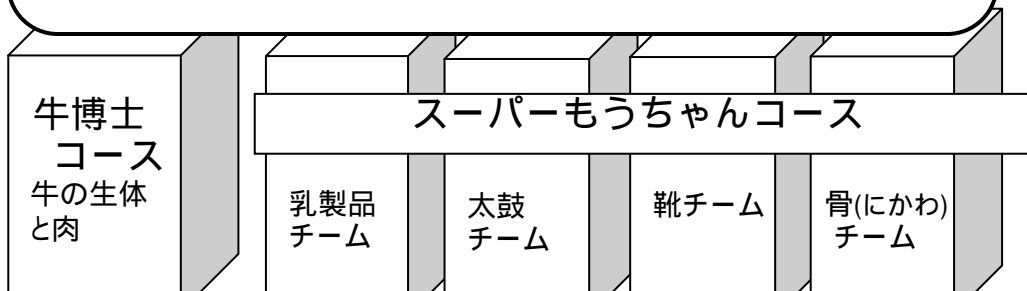
- ・「牛博士コース」(牛の生体と肉)
- ・「スーパーもうちゃんコース」
(乳製品チーム・太鼓チーム・靴チーム・骨(にかわ)チーム)

自分たちの暮らしに深くかかわっている牛について、興味を持ったコースで課題を追究する。

太鼓店、靴工場、肉屋等の見学

インターネット、書物等による調べ学習

6年社会科「江戸時代の産業」「水平社運動」等部落問題学習に発展

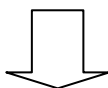


<広げる深める 2>

調べたことを発表しよう

- ・「牛から命をいただいている暮らしについて」

各コースの発表を聞き合い、自分たちの生活や文化に牛が深く関わっていることを知る。
牛の命をいただくことによって、自分たちの命や生活が成り立っていることを知る。



<計画し、実践する 1>

命をいただくって ということ?

- ・「いわしの手開きを体験しよう」

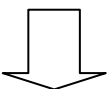
自分でいわしをさばいて生臭さや手触りを実感するとともに、調理（天ぷらに）しておいしさを味わう。

食材の作業は人まかせて、おいしさを味わっている私たちの食生活に気づく。

いわしをさばくことの大変さから、「牛はどうか」と牛の解体について問題意識をもつ。

家庭科との関連
「栄養」
「調理実習」

6年社会科
歴史学習における
部落問題学習
に発展



<振り返る 1>

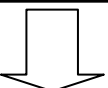
命と命をつなぐ仕事について

- ・「牛の解体・と畜場で働く人たちの技と思いに学ぶ」

と畜場で働く人たちの様子や思いを知る（ビデオ、資料、お話 など）

いわしをさばいた経験から、牛解体の技の巧みさや「鳴き声以外ムダにしない」牛の扱いに気づく。

と畜場の仕事は、「命と命をつなぐ」「命をよみがえらせる」すばらしい仕事であることを認識する。



<計画し、実践する 2>

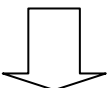
命と命をつなげよう! 命をよみがえらせよう!

- ・「命の響き『空き缶太鼓』を親子で作ろう」

牛が、肉になり、骨はかわになり、皮革は革製品になることから、「鳴き声以外は無駄にしない合理性」「命をいただくこと」「命と命をつなげること」「命をよみがえらせること」について再認識する。

牛の皮を使って、世界に一つの手づくり太鼓を親子で作る。

手づくり太鼓の披露
「運動会での
集団演技」
「音楽会での
演奏」など



<振り返る 2>

自分たちも命と命をつないでいこう

人と人のかかわりも命と命のつながりであることに気づき、自分たちの生活に返していく。

